

令和5年度「公募型共同研究事業」の採択を決定しました

(公財)若狭湾エネルギー研究センターでは、大学・研究機関および実用化・事業化を目指す企業との共同研究を推進しています。

令和5年度は、4月17日～5月31日に公募を行い、審査の結果、下記7件(実用化研究1件、産学連携研究2件、基礎研究4件)の研究提案について採択を決定いたしました。

記

【実用化研究】(1件) ※当法人の研究成果を実用化することを目指す企業を加えた共同研究

件名	研究概要	[提] 提案機関
光応答制御による高付加価値レタスの栽培方法の確立	植物工場のレタス栽培において、特定波長のLED照射によって赤色素の合成反応を制御し、十分に発色した赤色レタスの栽培手法を開発する。	[提] 株式会社フレデリッシュ

【産学連携研究】(2件) ※実用化を目指す企業を加えた共同研究 (順不同)

件名	研究概要	[提] 提案機関 [企] 参加企業 [協] 研究協力機関
福井の酒蔵の要望に応じて育成した酒米新品種「山田錦FW1号」の実醸造による評価と普及	日本酒醸造用ブランド酒米品種「山田錦」を福井県で栽培しやすく改良した新品種「山田錦FW1号」の栽培特性や醸造特性を明らかにすると共に、後継品種の育成を目指す。	[提] 福井県立大学 [企] 久保田酒造合資会社 [協] 福島大学
ポリイミドナノファイバーを用いた新規電解質膜の開発	高分子電解質型燃料電池において一般的に用いられているフッ素系スルホン酸電解質膜に比べ、熱安定性や電気伝導性に優れた電解質膜の開発を目指す。	[提] 福井大学 [企] カトーテック株式会社 [協] シンワ株式会社

【基礎研究】(4件) ※大学・研究機関との共同研究 (順不同)

件名	研究概要	[提] 提案機関 [協] 研究協力機関
イオンビームを用いた充放電時におけるリチウム電池内の正・負極間のリチウムイオン移動解析技術開発	飛行時間型反跳粒子検出(ToF-ERD)法を用いて、充放電時におけるリチウム電池内の電極/固体電解質界面のリチウムイオン移動量をその場で計測する手法を確立する。	[提] 名城大学 [協] 京都工芸繊維大学
加速器照射を利用した規則型 Fe-Al 合金中の空孔制御による多量水素貯蔵に関する研究	Fe-Al 合金中の原子の穴への水素捕獲現象を利用し、粒子線照射による空間サイズ制御と水素の捕獲状態及びその挙動を調査し、新たな水素貯蔵材料を探る。	[提] 大阪公立大学 [協] 京都大学 [協] 九州大学
イオン照射による低損失磁性材料の機械特性改善	次世代パワーエレクトロニクス回路の高効率化に必要な不可欠とされる低損失磁性材料の加工性をイオン照射により改善し、新しい磁性材料の開発を目指す。	[提] 東北大学
粒子線治療におけるアブスコパル効果イメージングに関する基礎的検討	粒子線治療においてアブスコパル効果が起きる条件を検討し、小動物を用いた PET 分子イメージングによってアブスコパル効果のイメージングを試みる。	[提] 福井大学

【お問い合わせ先】
公益財団法人若狭湾エネルギー研究センター
企画支援広報部 五十嵐
TEL 0770-24-7273